



2026年7月15日

各 位

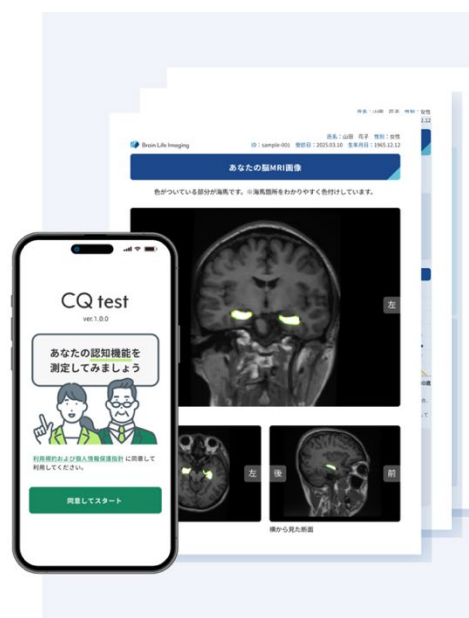
会 社 名 株 式 会 社 タ ウ ン ズ
代 表 者 名 代表取締役社長 野中雅貴
(コード番号： 197A 東証スタンダード市場)
問い合わせ先 取締役 C F O 内山義雄
TEL. 055-953-9590

株式会社 Splink との資本業務提携に関する基本合意のお知らせ

株式会社タウンズ（本社：静岡県伊豆の国市、代表取締役社長：野中 雅貴、証券コード：197A、以下「当社」）と株式会社 Splink（本社：東京都港区、代表取締役：青山 裕紀、以下「Splink」）は、戦略的パートナーシップを締結し、Splink の発行する普通株式を当社が引き受けること、並びに、アルツハイマー病（以下「AD」）を中心とする認知症の早期発見・早期介入を目的とした新たな認知症診療モデルの構築を目的とした業務提携を進めることに基本合意したことをお知らせいたします。



地域医療から専門医療へつなぐ
新しい認知症診療モデル

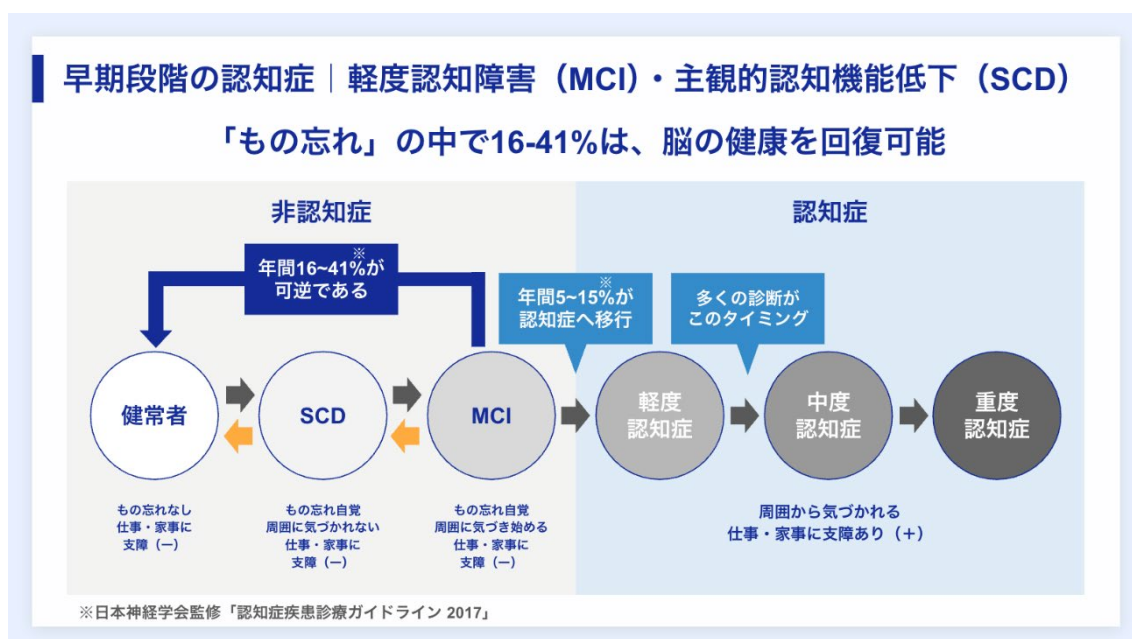


1. 業務提携を進める背景 ～認知症医療は「早期発見・早期介入」の時代～

急速な高齢化の進展に伴い、日本における認知症患者は今後も増加すると予測されており、医療・介護・社会保障における重要な社会課題となっています。一方、近年の研究では、高血圧や糖尿病などの生活習慣病の管理に加え、運動や認知活動などの適切な介入により、認知症の発症リスクを低減できる可能性が示されています。このため、「発症後の治療」だけでなく、軽度認知障害（Mild Cognitive Impairment：MCI）や主観的認知機能低下（Subjective Cognitive Decline：SCD）といった「発症前・発症初期の段階で介入」することの重要性が高まっています。

さらに、AD に対する疾患修飾療法（Disease Modifying Therapy：DMT）の社会実装が進む中で、DMT の治療効果を最大限に引き出すためには、認知症発症前後の早期段階でアルツハイマー型の患者を適切に抽出し、専門医療へつなぐことが重要です。MCI など認知機能低下の早期段階では、生活習慣の改善や DMT を含む適切な医療介入により、認知機能の改善や進行抑制が期待できることから、この時期にリスクを評価し、適切な介入へ結び付けることは認知症診療における重要な課題です。

しかし、現状は専門医不足や高度な検査へのアクセス制約、高額な検査コストの負担などの要因から、十分なリスク評価体制が整備されているとは言えません。このような背景から、地域のクリニックなどより身近な医療現場でも実施可能な、簡便かつ客観的な認知症リスク評価技術への期待が高まっています。



2. 進めていく業務提携の内容

(1) 進めていく業務提携の概要

デジタルバイオマーカーと血液バイオマーカーを組み合わせたマルチモーダルな評価手法により、新たな認知症診療モデルを支える技術基盤の構築を進めます。Splink は、認知機能評価、脳画像解析 AI、医療機関・健診施設への導入ノウハウを基盤に、認知症リスクをデジタルに評価する技術・プラットフォームを提供します。タウンズは、バイオマーカーおよび体外診断用医薬品の研究開発・製造・品質管理に関する知見を生かし、血液バイオマーカーを活用した認知症 POCT (Point of Care Testing) の開発を担います。両社は、それぞれの強みを融合することで、地域医療で実施可能な、客観的かつ高精度の認知症リスク評価手法の確立を目指します。



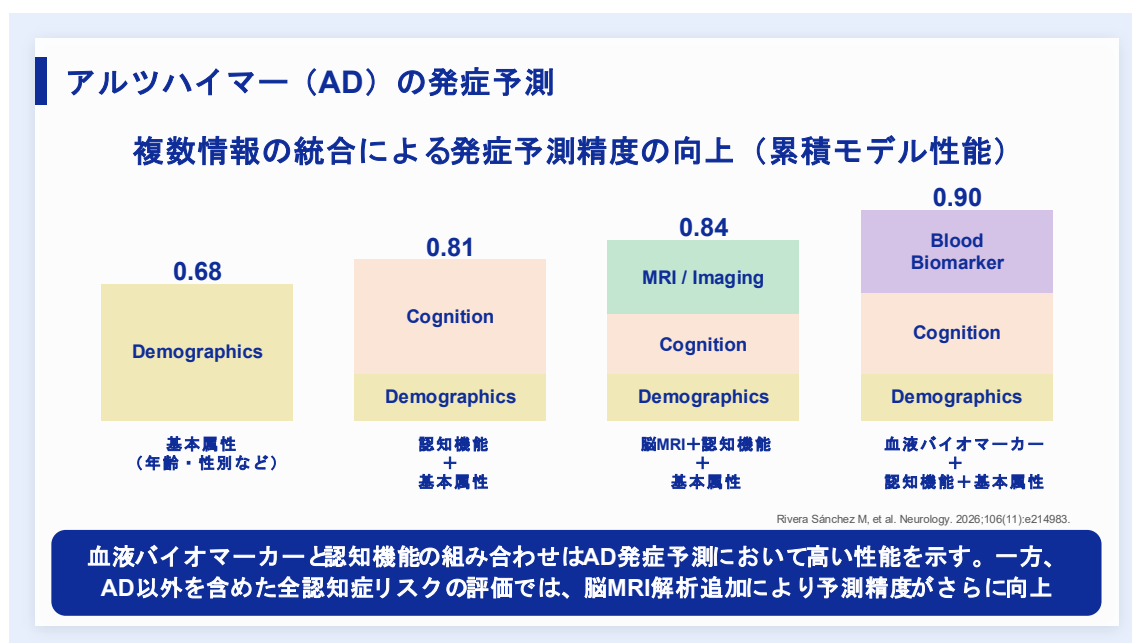
(2) 業務提携を進め目指すイノベーション ～デジタル×血液バイオマーカーによる新しい認知症リスク評価～

認知症の発症リスクには、加齢が大きく影響します。しかし、それだけでは一人ひとりのリスクを十分に評価することはできません。認知機能、脳画像、血液バイオマーカーなど異なる情報を統合することで、より個別性の高いリスク評価が可能になります。

両社は、

- ・ 基本属性（年齢・性別など）
- ・ 認知機能評価
- ・ MRI 画像解析 AI
- ・ 血液バイオマーカー

を組み合わせたマルチモーダルな評価手法により、単一の検査では把握しきれない認知症リスクを多面的に評価します。クリニック、健診施設、脳ドックなど幅広い場面で活用できる認知症リスク評価手法を整備し、地域医療における認知症リスク評価の客観性と精度の向上を目指します。



（３）新たな認知症診療モデルの実現に向けて

両社は、認知症への不安や違和感を早期の気づきから適切な診断・治療へ結び付ける、新たな患者導線の構築を進めます。

地域のクリニック、健診施設、脳ドックなどでデジタルバイオマーカーと血液バイオマーカーを活用したリスク評価を実施し、高リスクと評価された方をメモリークリニックや高度医療機関へ紹介する導線の構築を支援します。専門医による精密な診断を経て、疾患修飾

療法（DMT）を含む適切な治療や生活習慣改善などの早期介入へつなげることで、認知機能低下の進行抑制や生活の質（QOL）の維持に貢献します。こうした地域医療と専門医療との連携を通じて、より多くの方々が適切なタイミングで診断や治療につながる医療体制の構築を目指します。

（４）社会実装による社会的インパクト

Splink とタウンズは、新たな認知症診療モデルの社会実装を推進することで、

- 地域医療における認知症の早期発見体制の構築
- 専門的な診断・治療が必要な方を適切に専門医療へつなぐ医療連携
- 限られた専門医療資源の有効活用
- 地域間における認知症診療格差の縮小（質の均てん化）
- 健康寿命の延伸

に貢献してまいります。

3. 基本合意先の概要

(1) 名称	株式会社 Splink
(2) 所在地	東京都港区赤坂 1-14-14 WAW 赤坂第 35 興和ビル 4 階
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 青山 裕紀
(4) 事業内容	「ブレインヘルスケア」事業、医療データ基盤事業
(5) 設立年月	2017 年 1 月
(6) コーポレートサイト	https://www.splinkns.com/

4. 両社コメント

株式会社タウンズ代表取締役社長野中雅貴コメント

当社は中期経営計画において、慢性疾患領域への進出を重要な成長戦略の一つに掲げております。その中でも、患者様ご本人のみならず、ご家族や社会全体にも大きな影響を与える重要な社会課題である認知症を重点領域と位置付けております。

このたび、認知症領域において先進的なソリューションを展開する Splink 様と戦略的パ

ートナシップを進めることに合意できたことを大変嬉しく思います。Splink 様が有する認知機能測定技術や医療 AI プラットフォームと、当社が開発を進める認知症 POCT を組み合わせることで、クリニックなどにおける認知症・MCI の早期スクリーニングおよび適切なトリアージの実現を支援できるものと期待しております。

疾患修飾薬(DMT)の登場により認知症・MCI の早期発見・早期介入の重要性が高まるなか、当社は地域医療と専門医療との円滑な連携を支援し、より多くの方々に適切なタイミングで診断や治療へつなぐ環境づくりに取り組んでまいります。

今後も両社の強みを生かした連携を深化させることで、認知症診療における新たな価値創出を目指すとともに、患者様の QOL 向上と持続可能な医療システムの実現に貢献してまいります。

株式会社 Splink 代表取締役青山裕紀コメント

認知症領域では、MCI をはじめとした早期段階でのスクリーニングと早期介入の重要性がますます高まっています。また、社会実装の観点では、簡便で継続的に利用でき、かつ医療・健診の現場に自然に組み込める検査モデルが求められています。

当社は、「ブレインヘルスケアを世界の当たり前に」をミッションに、認知機能評価や医療 AI を活用したソリューションを展開してまいりました。こうした社会課題を解決するためには、これらデジタルバイオマーカーに加え、診療現場で迅速かつ簡便に実施できる血液バイオマーカー技術との融合が不可欠であると考えています。感染症領域で高い実績を有し、慢性疾患領域への展開を進めるタウンズ様とご一緒できることを大変心強く感じています。

本業務提携を進めることで、当社の認知機能評価技術や医療 AI と、タウンズ様が開発を進める認知症 POCT を融合し、クリニックやメモリークリニックでも実施可能な新たなスクリーニングモデルの実現を目指します。AD に加え、非アルツハイマー型認知症も視野に入れ、より多くの方が適切な診断・治療へつながる患者導線の構築を目指します。地域医療で活用できる認知症リスク評価手法を構築し、必要な方を適切な診断・治療へつなぐ新たな認知症診療モデルの社会実装を推進してまいります。

5. 今後の見通し

現時点で、本基本合意が当社の当面の業績に与える影響は軽微であると考えておりますが、重要な影響を与えることが判明した場合には速やかに開示します。

6. その他

本基本合意の詳細については、当事者間の合意により一部非開示としております。

以 上